



D コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

data-pattern-file

Storage Area Network (SAN; ストレージ エリア ネットワーク) チューナー拡張 N ポートのデータ パターン ファイルを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードで **data-pattern-file** コマンドを使用します。データ パターン ファイルを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

data-pattern-file *filename*

no data-pattern-file

シンタックスの説明

filename データ パターン ファイル名を指定します。

デフォルト

すべてゼロ パターン

コマンドモード

SAN 拡張 N ポート コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、仮想 N ポートによって生成されたデータのパターンとして、すべてゼロ パターンが使用されます。bootflash:、volatile:、または slot0: の 3 つのロケーションのうちの 1 つからデータ パターン ファイルを選択することで生成されるデータ パターンとしてファイルを指定することもできます。このオプションは、特に Fibre Channel over IP (FCIP) リンクで圧縮をテストするときに役立ちます。また、ベンチマークを目的として、Canterbury コーパス ファイルまたは人工的のコーパス ファイルも使用できます。

例

次に、N ポートのデータ パターン ファイルを設定する例を示します。

```
switch# san-ext-tuner
switch(san-ext)# nWWN 10:00:00:00:00:00:00:00
switch(san-ext)# nport pwwn 12:00:00:00:00:00:00:56 vsan 13 interface gigabitethernet
1/2
switch(san-ext-nport)# data-pattern-file bootflash://DataPatternFile
```

関連コマンド

コマンド	説明
nport pwwn	SAN 拡張チューナー N ポート pWWN を設定します。
san-ext-tuner	SAN 拡張チューナー コンフィギュレーション モードを開始します。
show san-ext-tuner	SAN 拡張チューナー情報を表示します。

deadtime (radius group configuration)

到達不可能な（応答のない）RADIUS サーバの応答を求めてモニタリングを行う間隔を設定するには、RADIUS グループ コンフィギュレーション サブモードで **deadtime** コマンドを使用します。応答のないサーバのモニタリングをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

deadtime *time*

no deadtime *time*

シンタックスの説明	<i>time</i>	サーバをモニタリングするための時間間隔を分で指定します。時間の範囲は 1 ～ 1440 分です。
------------------	-------------	--

デフォルト ゼロ

コマンドモード RADIUS グループ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 個々の RADIUS サーバのデッドタイム インターバルがゼロ (0) より大きい場合は、サーバグループに設定された値より、その値の方が優先されます。

デッドタイマー インターバルが 0 分の場合、RADIUS サーバがサーバグループに属しており、そのグループのデッドタイム インターバルが 0 分より大きい値でないかぎり、RADIUS サーバモニタリングは実行されません。

例 次に、RADIUS グループ コンフィギュレーション サブモードで **deadtime** コマンドを表示する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa group server radius testgroup
switch(config-radius)# deadtime 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	radius-server deadtime	応答のない RADIUS サーバをモニタするタイム インターバルを設定します。
	show radius-server	RADIUS サーバ情報を表示します。

deadtime (tacacs+ group configuration)

到達不可能な（応答のない）Terminal Access Controller Access Control System Plus（TACACS+）サーバの応答を求めてモニタリングを行う間隔を設定するには、TACACS+ グループ コンフィギュレーション サブモードで **deadtime** コマンドを使用します。応答のないサーバのモニタリングをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

deadtime *time*

no deadtime *time*

シンタックスの説明	<i>time</i>	サーバをモニタリングするための時間間隔を分で指定します。時間の範囲は 1 ~ 1440 分です。
------------------	-------------	--

デフォルト	ゼロ
--------------	----

コマンドモード	TACACS+ グループ コンフィギュレーション サブモード
----------------	--------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 個別の TACACS+ サーバのデッド時間間隔がゼロ（0）よりも大きい場合は、サーバグループに設定された値よりもその値が優先されます。

デッド時間間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバがサーバグループの一部でグループのデッド時間間隔が 0 分を超えていない限り、TACACS+ サーバモニタリングは実行されません。

例 次に、TACACS+ グループ コンフィギュレーション サブモードで **deadtime** コマンドを表示する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# aaa group server tacacs mygroup
switch(config-tacacs)# deadtime 5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	tacacs-server deadtime	非応答 TACACS+ サーバをモニタリングする時間間隔を設定します。
	show tacacs-server	TACACS+ サーバ情報を表示します。

delete

フラッシュ メモリ デバイス上の指定したファイルまたはディレクトリを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。

```
delete {bootflash:filename | debug:filename | log:filename | modflash:filename | slot0:filename |
        volatile:filename}
```

シンタックスの説明

bootflash:	スーパーバイザ モジュールにあるフラッシュ イメージ
debug:	デバッグ ファイルを含みます。
log:	2つのデフォルト ログファイルを含みます。dmesg ファイルにはカーネルのログ メッセージが含まれており、ファイル メッセージにはシステム アプリケーションのログ メッセージが含まれています。
modflash:	モジュールにあるフラッシュ イメージ
slot0:	他のモジュールにあるフラッシュ イメージ
volatile:	揮発性ファイル システムにあるフラッシュ イメージ
<i>filename</i>	削除するファイル名

デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0(2)	このコマンドが導入されました。
2.1(1a)	debug 、 log 、および modflash キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

ファイルの削除を実行すると、ソフトウェアがファイルを削除します。

CONFIG_FILE または BOOTLDR 環境変数で指定されたコンフィギュレーション ファイルまたはイメージを削除する場合、システムが削除の確認を促します。また、BOOT 環境変数に指定された、有効で最新のシステム イメージを削除する場合にも、システムが削除の確認を促します。



注意

1つのディレクトリを指定している場合、**delete** コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

例

次に、slot0 に挿入されたフラッシュ カードから **test** という名のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete slot0:test
Delete slot0:test?[confirm]
```

次に、ディレクトリからファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete dns_config.cfg
```

次に、外部コンパクトフラッシュ (slot0) からファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete slot0:dns_config.cfg
```

次に、my-dir ディレクトリ全体とその内容すべてを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:my-dir
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールで、ユーザが作成した dk ログ ファイルをすべて削除する例を示します。

```
switch# delete log://sup-active/
log://sup-active/dk          log://sup-active/dmesg      log://sup-active/messages
switch# delete log://sup-active/dk
switch# dir log:
      31      Feb 04 18:22:03 2005  dmesg
     14223    Feb 04 18:25:30 2005  messages

Usage for log://sup-local
  35393536 bytes used
  174321664 bytes free
  209715200 bytes total
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	デフォルトのディレクトリまたはファイル システムを変更します。
dir	ファイル システムのファイルの一覧を表示します。
show boot	BOOT 環境変数の内容、CONFIG_FILE 環境変数に指定されたコンフィギュレーション ファイル名、BOOTLDR 環境変数の内容、およびコンフィギュレーション レジスタ設定を表示します。

delete ca-certificate

CA 証明書を削除するには、トラスト ポイント コンフィギュレーション サブモードで **delete ca-certificate** コマンドを使用します。

delete ca-certificate

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 信頼点コンフィギュレーションサブモード

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、トラスト ポイント CA に対応する CA 証明書または証明書チェーンを削除します。結果として、トラスト ポイント CA は信頼されなくなります。その CA のアイデンティティ証明書が存在する場合は、これを削除してから CA 証明書を削除してください。こうして、その CA のアイデンティティ証明書をまだ削除していない状態で CA 証明書を誤って削除しないようにします。CA が信用できなくなったり、非常にまれですが、CA 証明書がすでに失効しているなどの理由から、CA を信頼しないようにする場合にこのアクションが必要になることがあります。



(注)

トラスト ポイント設定、証明書、およびキー ペア設定は、スタートアップ コンフィギュレーションに保存してある場合のみ維持されます。このコンフィギュレーション動作と矛盾せず、削除も同様に動作します。つまり、削除をスタートアップ コンフィギュレーションに保存した場合のみ維持されます。

証明書およびキー ペアの削除を維持するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

例 次に、CA 証明書を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# delete ca-certificate
```

コマンド	説明
delete certificate	アイデンティティ証明書を削除します。
delete crl	トラスト ポイントから Certificate Revocation List (CRL; 証明書失効リスト) を削除します。

delete certificate

アイデンティティ証明書を削除するには、トラスト ポイント コンフィギュレーション サブモードで **delete certificate** コマンドを使用します。

delete certificate [force]

シンタックスの説明	force	アイデンティティ証明書を強制的に削除します。
デフォルト	なし	
コマンド モード	信頼点コンフィギュレーション サブモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、トラスト ポイント CA からアイデンティティ証明書を削除します。アイデンティティ証明書が失効しているか、対応するキー ペアが信頼できない場合にこのアクションが必要になることがあります。存在する最後または唯一のアイデンティティ証明書を削除すると、アプリケーションにはアイデンティティ証明書がない状態になります。したがって、削除しようとしている証明書が存在する最後または唯一のアイデンティティ証明書である場合には、エラーメッセージが生成されます。必要であれば、**force** オプションを使用して削除を強制することで、削除が行われます。



(注)

トラスト ポイント設定、証明書、およびキー ペア設定は、スタートアップ コンフィギュレーションに保存してある場合のみ維持されます。このコンフィギュレーション動作と矛盾せず、削除も同様に動作します。つまり、削除をスタートアップ コンフィギュレーションに保存した場合のみ維持されます。

証明書およびキー ペアの削除を維持するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

例

次に、アイデンティティ証明書を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# delete certificate
```

次に、アイデンティティ証明書を強制的に削除する例を示します。

```
switch(config-trustpoint)# delete certificate force
```

関連コマンド

コマンド	説明
delete ca-certificate	CA 証明書を削除します。
delete crl	トラスト ポイントから Certificate Revocation List (CRL; 証明書失効リスト) を削除します。

delete crl

トラストポイントから Certificate Revocation List (CRL; 証明書失効リスト) を削除するには、トラストポイント コンフィギュレーション サブモードで **delete crl** コマンドを使用します。

delete crl

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 信頼点コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、トラストポイントから CRL を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# crypto ca trustpoint admin-ca
switch(config-trustpoint)# delete crl
```

関連コマンド	コマンド	説明
	delete ca-certificate	CA 証明書を削除します。
	delete certificate	アイデンティティ証明書を削除します。

deny (IPv6-ACL configuration)

IPv6 Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) の拒否条件を設定するには、IPv6-ACL コンフィギュレーション サブモードで **deny** コマンドを使用します。条件を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
deny {ipv6-protocol-number | ipv6}
      {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address}
      {dest-ipv6-prefix/prefix-length | any | host dest-ipv6-address}
      [log-deny]
```

```
deny icmp
      {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address}
      {dest-ipv6-prefix/prefix-length | any | host dest-ipv6-address}
      [icmp-type [icmp-code]]
      [log-deny]
```

```
deny tcp
      {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address}
      [source-port-operator source-port-number |
      range source-port-number source-port-number]
      {dest-ipv6-prefix/prefix-length | any | host dest-ipv6-address}
      [dest-port-operator dest-port-number |
      range dest-port-number dest-port-number]
      [established] [log-deny]
```

```
deny udp
      {source-ipv6-prefix/prefix-length | any | host source-ipv6-address}
      [source-port-operator source-port-number |
      range source-port-number source-port-number]
      {dest-ipv6-prefix/prefix-length | any | host dest-ipv6-address}
      [dest-port-operator dest-port-number |
      range dest-port-number dest-port-number]
      [log-deny]
```

```
no deny {ipv6-protocol-number | ipv6 | icmp | tcp | udp}
```

シンタックスの説明

<i>ipv6-protocol-number</i>	IPv6 プロトコル番号を指定します。有効範囲は 0 ~ 255 です。
ipv6	ACL を任意の IPv6 パケットに適用します。
<i>source-ipv6-prefix/prefix-length</i>	送信元 IPv6 ネットワークまたはネットワーク クラスを指定します。フォーマットは <i>X:X:X:X/n</i> です。
any	ACL を任意の送信元または宛先プレフィクスに適用します。
<i>host source-ipv6-address</i>	ACL を指定された送信元 IPv6 ホスト アドレスに適用します。フォーマットは <i>X:X:X:X</i> です。
<i>dest-ipv6-prefix/prefix-length</i>	宛先 IPv6 ネットワークまたはネットワーク クラスを指定します。フォーマットは <i>X:X:X:X/n</i> です。
<i>host dest-ipv6-address</i>	ACL を指定された宛先 IPv6 ホスト アドレスに適用します。フォーマットは <i>X:X:X:X</i> です。
log-deny	ドロップされたパケットの場合、エントリと一致するパケットに関する情報ログ メッセージを作成します。メッセージには入力インターフェイスが含まれます。
icmp	ACL を Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル) パケットに適用します。

<i>icmp-type</i>	ICMP メッセージタイプを指定します。有効範囲は 0 ~ 255 です。
<i>icmp-code</i>	ICMP メッセージコードを指定します。有効範囲は 0 ~ 255 です。
tcp	ACL を任意の TCP パケットに適用します。
<i>source-port-operator</i>	指定されたプロトコルの送信元ポートを比較するオペランドを指定します。オペランドは lt (less than : より小さい)、 gt (greater than : より大きい)、および eq (等しい) です。
<i>source-port-number</i>	TCP または UDP ポートのポート番号を指定します。有効範囲は 0 ~ 65535 です。範囲を指定する場合は、2つのポート番号が必要です。
udp	ACL を任意の UDP パケットに適用します。
<i>dest-port-operator</i>	指定されたプロトコルの宛先ポートを比較するオペランドを指定します。オペランドは lt (less than : より小さい)、 gt (greater than : より大きい)、および eq (等しい) です。
<i>dest-port-number</i>	TCP または UDP ポートのポート番号を指定します。有効範囲は 0 ~ 65535 です。範囲を指定する場合は、2つのポート番号が必要です。
range	指定されたプロトコルを比較するポート範囲を指定します。
established	パケットの SYN フラグ全体が設定されていないものとして定義されている、確立された接続を示します。

デフォルト

なし

コマンドモード

IPv6-ACL コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
3.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の注意事項は ACL を設定する際に役立ちます。詳細については、『Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide』を参照してください。

- IPv6-ACL は、VSAN インターフェイス、管理インターフェイス、IPS モジュールおよび MPS-14/2 モジュールのギガビット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル インターフェイスに適用できます。ただし、ギガビット イーサネット インターフェイスで IPv6-ACL がすでに設定されている場合、このインターフェイスをイーサネット ポートチャネル グループに追加することはできません。

**注意**

IPv6-ACL を、ポートチャネル グループ内の特定のメンバーだけに適用しないでください。IPv6-ACL をチャネル グループ全体に適用します。

- ギガビット イーサネット インターフェイスで IPv6-ACL を設定するときは、TCP または ICMP オプションのみを使用します。
- 条件の順序は正確に設定します。IPv6-ACL フィルタは順番に IP フローに適用されるので、最初の一致が実行するアクションを決定します。以後の一致は考慮されません。最も重要な条件を最初に設定してください。一致する条件がない場合、パケットは削除されます。

例 次に、List1 という IPv6-ACL を設定し、IPv6-ACL サブモードを開始し、すべての送信元アドレスから送信先アドレスへの TCP トラフィックを拒否するようエントリを入力する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# ipv6 access-list List1
switch(config-ipv6-acl)# deny tcp any any
```

次に、指定の UDP ホストの送信先プレフィクスに設定された拒否条件を削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# ipv6 access-list List1
switch(config-ipv6-acl)# no deny udp host 2001:db8:200d::4000 any
```

次に、List1 という IPv6-ACL とそのエントリをすべて削除する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no ipv6 access-list List1
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 access-list	IPv6 ACL を設定し、IPv6-ACL コンフィギュレーション サブモードを開始します。
permit	IPv6-ACL の許可条件を設定します。

destination interface

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) の宛先インターフェイスを設定するには、SPAN セッション コンフィギュレーション サブモードで **destination interface** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
destination interface {fc slot/port | fc-tunnel tunnel-id}
```

```
no destination interface {fc slot/port | fc-tunnel tunnel-id}
```

シンタックスの説明

fc slot/port	ファイバチャネルインターフェイス ID をスロットおよびポートで指定します。
fc-tunnel tunnel-id	ファイバチャネルトンネルインターフェイス ID を指定します。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

SPAN セッション コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0(2)	このコマンドが導入されました。
1.2(1)	fc-tunnel パラメータを追加しました。

使用上のガイドライン

SPAN の宛先インターフェイスは、**switchport** コマンドを使用して SPAN 宛先ポート (SD ポート) モードとして設定してから、インターフェイスを宛先インターフェイスとして SPAN セッションと関連付ける必要があります。

例

次に、インターフェイスを SPAN 宛先ポート (SD ポート) として設定し、SPAN セッションを作成してから、SPAN 宛先インターフェイスとしてインターフェイス fc3/13 を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# interface fc3/13
switch(config-if)# switchport mode sd
switch(config)# span session 1
switch(config-span)# destination interface fc3/13
switch(config-span)# do show span session 1
switch(config-span)# show span session 1
Session 1 (inactive as destination is down)
  Destination is fc3/13
  No session filters configured
  No ingress (rx) sources
  No egress (tx) sources

switch(config-span)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
switchport	ファイバチャネルインターフェイスのスイッチポートモードを設定します。
span session	SPAN セッションを選択または設定して、SPAN コンフィギュレーションサブモードに変更します。
source	SPAN の送信元を設定します。
suspend	SPAN セッションを中断します。
show span session	指定の SPAN 情報を表示します。

destination-profile

Call Home 機能でカスタマー ID を設定するには、Call Home コンフィギュレーション サブモードで **destination-profile** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
destination-profile {profile-name | full-txt-destination | short-txt-destination | xml-destination}
                  {alert-group {all | avanti | cisco-tac | environmental | inventory | license | linecard-hardware |
rmon | supervisor-hardware | syslog-group-port | system | test}}
```

```
no destination-profile {profile-name | full-txt-destination | short-txt-destination | xml-destination}
                      {alert-group {all | avanti | cisco-tac | environmental | inventory | license | linecard-hardware |
rmon | supervisor-hardware | syslog-group-port | system | test}}
```

シンタックスの説明

profile-name	ユーザ定義のユーザ プロファイルを指定します (最大 32 文字の英数字)。
full-txt-destination	プレーン テキスト メッセージの宛先プロファイルを設定します。
short-txt-destination	(任意) ショート テキスト メッセージの宛先を設定します。
xml-destination	(任意) XML メッセージの宛先プロファイルを設定します。
alert-group	1 つ以上のアラート グループを指定します。
all	すべての Call Home メッセージで構成されるアラート グループを指定します。
avanti	Avanti のみに関するイベントで構成されたアラート グループを指定します。
cisco-tac	Cisco TAC のみに関するイベントで構成されたアラート グループを指定します。
environmental	電源、ファン、温度関連のイベントで構成されるアラート グループを指定します。
inventory	インベントリ ステータス イベントで構成されるアラート グループを指定します。
license	ライセンス ステータス イベントで構成されるアラート グループを指定します。
linecard-hardware	モジュール関連のイベントで構成されるアラート グループを指定します。
rmon	Remote Monitoring (RMON) ステータス イベントで構成されるアラート グループを指定します。
supervisor-hardware	スーパーバイザ関連のイベントで構成されるアラート グループを指定します。
syslog-port-group	Syslog ポート グループ ステータス イベントで構成されるアラート グループを指定します。
system	ソフトウェア関連のイベントで構成されるアラート グループを指定します。
test	ユーザ生成のテスト イベントで構成されるアラート グループを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

Call Home コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、完全テキスト宛先プロファイルの設定例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination email-addr
person@place.com
switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination message-size
1000000
```

次に、ショートテキスト宛先プロファイルの設定例を示します。

```
switch(config-callhome)# destination-profile short-txt-destination email-addr
person@place.com
switch(config-callhome)# destination-profile short-txt-destination message-size
100000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callhome	Call Home 機能を設定します。
	callhome test	ダミーのテストメッセージを設定された 1 つまたは複数の宛先へ送信します。
	show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

device-alias (IVR fcdomain database configuration submode)

デバイスエイリアスと IVR の固定 Fibre Channel (FC; ファイバチャネル) ID をマッピングするには、IVR fcdomain データベース コンフィギュレーション サブモードで **device-alias** コマンドを使用します。デバイスエイリアスのマッピングを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias device-name fc-id
```

```
no device-alias device-name
```

シンタックスの説明

<i>device-name</i>	デバイス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
<i>fc-id</i>	デバイスの FC ID を指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

IVR fcdomain データベース コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.1(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

1 つのデバイスエイリアスにマッピングできるのは 1 つの FC ID だけです。

例

次に、固定 FC ID にデバイスエイリアスをマッピングする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# ivr fcdomain database autonomous-fabric-num 10 vsan 20
switch(config-fcdomain)# native-autonomous-fabric-num 20 native-vsan 30 domain 15
switch(config-fcdomain-fcid)# device-alias SampleName 0x123456
```

次に、デバイスエイリアスと FC ID のマッピングを削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# ivr fcdomain database autonomous-fabric-num 10 vsan 20
switch(config-fcdomain)# native-autonomous-fabric-num 20 native-vsan 30 domain 15
switch(config-fcdomain-fcid)# no device-alias SampleName
```

関連コマンド

コマンド	説明
ivr fcdomain database autonomous-fabric-num	IVR 永続的 FC ID を作成します。
native-autonomous-fabric-num	IVR 永続的 FC ID データベース エントリを作成します。
show ivr fcdomain database	IVR fcdomain データベース エントリ情報を表示します。

device-alias (SDV virtual device configuration submode)

仮想デバイスにデバイスエイリアスを追加するには、SAN Device Virtualization (SDV; SAN デバイスバーチャライゼーション) 仮想デバイス コンフィギュレーション サブモードで **device-alias** コマンドを使用します。デバイスエイリアスを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias *device-name* [primary]

no device-alias *device-name* [primary]

シンタックスの説明	device-name	デバイス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	primary	デバイスをプライマリ デバイスとして指定します。

デフォルト なし

コマンドモード SDV 仮想デバイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.1(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、仮想ターゲットのエイリアス名を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# sdv virtual-device name sql vsan 1
switch(config-sdv-virt-dev)# device-alias group1 primary
```

関連コマンド	コマンド	説明
	sdv enable	SAN デバイス バーチャライゼーションをイネーブルまたはディセーブルにします。
	show sdv statistics	SAN デバイス バーチャライゼーションの統計情報を表示します。

device-alias abort

進行中の分散デバイス エイリアス サービス (デバイス エイリアス) の Cisco Fabric Service (CFS) 分配セッションを廃棄するには、コンフィギュレーション モードで **device-alias abort** コマンドを使用します。

device-alias abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次の例では、進行中のデバイス エイリアス CFS 配信セッションを廃棄する方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	デバイス エイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
	show device-alias	デバイス エイリアス情報を表示します。

device-alias commit

ファブリック内で進行中の分散デバイスエイリアスサービス(デバイスエイリアス)の Cisco Fabric Services (CFS) 分配セッション関連の未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーションモードで **device-alias commit** コマンドを使用します。

device-alias commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次の例では、未決定の変更を確定して Dynamic Port VSAN Membership (DPVM; ダイナミック ポート VSAN メンバシップ) データベースを有効にする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	デバイスエイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
	show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias database

分散デバイスエイリアス サービス (デバイスエイリアス) セッションを開始し、デバイスエイリアス データベースを設定するには、**device-alias database** コマンドを使用します。デバイスエイリアス データベースを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias database

no device-alias database

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト デイセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **device-alias database** コマンドは、このファブリックにあるすべてのスイッチ上のすべてのデータベースをロックするデバイスエイリアスセッションを開始します。デバイスエイリアスコンフィギュレーションサブモードを終了したとき、デバイスエイリアスセッションが終了し、ロックが解除されます。

一時的なデバイスエイリアスデータベースでのみすべての変更内容を実行できます。変更を永続的なものにするには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例 次の例では、デバイスエイリアスセッションを有効にし、デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションサブモードにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias commit	一時的なデバイスエイリアスデータベースへの変更をアクティブデバイスエイリアスデータベースに実行します。
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias distribute

分散デバイスエイリアス サービス (デバイスエイリアス) の Cisco Fabric Services (CFS) 分配をイネーブルにするには、**device-alias distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias distribute

no device-alias distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン CFS 分配セッションへの未決定の変更を適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例 次の例では、デバイスエイリアス情報の分配をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias commit	アクティブ デバイス エイリアス データベースへの変更を確定します。
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
	show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias import fcalias

デバイスエイリアスデータベース情報を別の VSAN（仮想 SAN）からインポートするには、**device-alias import fcalias** コマンドを使用します。デフォルト コンフィギュレーションまたは工場出荷時のデフォルトに戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

```
no device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
デフォルト		なし
コマンド モード		コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の制限を満たしている場合、この機能を使用して、データを損失することなくレガシー デバイス名コンフィギュレーションをインポートできます。

- 各 fcalias には、メンバーが 1 つだけある。
- メンバー タイプがデバイス名実装でサポートされている。

名前の競合が存在する場合、fcalias はインポートされません。デバイス名データベースは、VSAN 従属 fcalias データベースから完全に独立しています。

インポート操作が完了したら、新しい定義がどこでも利用できるように、**device-alias distribute** コマンドを使用して、物理ファブリック内にある他のすべてのスイッチに変更したグローバル fcalias テーブルを配信できます。

例 次の例では、デバイスエイリアス情報をインポートする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias import fcalias vsan 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	fcalias データベースの変更をファブリックに配信します。
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias name

デバイスエイリアスデータベースでデバイス名を変更するには、**device-alias name** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias name *device-name* **pwwn** *pwwn-id*

no device-alias name *device-name*

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>device-name</i>	デバイス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	pwwn <i>pwwn-id</i>	pWWN ID を指定します。フォーマットは <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数値です。

デフォルト なし

コマンドモード デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次の例では、デバイス名データベースでデバイス名エイリアス エントリを設定する方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias name Device1 pwwn
21:00:00:20:37:6f:db:bb
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーションサブモードにします。
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

dir

現在のディレクトリまたは指定のディレクトリの内容を表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。

```
dir [bootflash:module | directory-or-filename | debug:directory-or-filename | log:module |
    directory-or-filename | modflash:module | directory-or-filename | slot0:directory-or-filename |
    volatile:module | directory-or-filename]
```

シンタックスの説明

bootflash:	(任意) スーパーバイザ モジュールにあるフラッシュ イメージ
debug:	(任意) デバッグ キャプチャ ディレクトリの情報を示します。
log:	(任意) 2 つのデフォルト ログ ファイルの情報を示します。dmesg ファイルにはカーネルのログ メッセージが含まれており、ファイル メッセージにはシステム アプリケーションのログ メッセージが含まれています。
modflash:	(任意) モジュールのフラッシュ ファイル ディレクトリにあるフラッシュ イメージの情報を示します。
slot0:	(任意) 他のモジュールにあるフラッシュ イメージ
<i>module</i>	(任意) モジュール名およびモジュール番号を指定します。
<i>filename-or-directory</i>	(任意) 指定したデバイス上で表示する、ファイル名またはディレクトリ。ファイルはすべてのタイプが指定可能です。filename にはワイルドカードを使用できます。ワイルドカード文字 (*) は、すべてのパターンと一致します。ワイルドカードより後ろのストリングは無視されます。
volatile:	揮発性ファイル システムにあるフラッシュ イメージ

デフォルト

デフォルトのファイル システムは **cd** コマンドで指定します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.2(1)	このコマンドが導入されました。
2.1(1a)	debug 、 log 、および modflash キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、ブートフラッシュ ディレクトリ上のファイルを一覧表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
40295206      Aug 05 15:23:51 1980  ilc1.bin
12456448      Jul 30 23:05:28 1980  kickstart-image1
12288        Jun 23 14:58:44 1980  lost+found/
27602159     Jul 30 23:05:16 1980  system-image1
12447232     Aug 05 15:08:30 1980  kickstart-image2
28364853     Aug 05 15:11:57 1980  system-image2

Usage for bootflash://sup-local
 135404544 bytes used
  49155072 bytes free
 184559616 bytes total
```

次に、デバッグ ディレクトリ上のファイルを一覧表示する例を示します。

```
switch# dir debug:
Usage for debug://sup-local
      0 bytes used
 2097152 bytes free
 2097152 bytes total
switch#
```

次に、ログ ファイル ディレクトリ上のファイルを一覧表示する例を示します。

```
switch# dir log:
      31      Feb 05 05:00:57 2005  dmesg
 8445      Feb 06 10:34:35 2005  messages

Usage for log://sup-local
 35196928 bytes used
 174518272 bytes free
 209715200 bytes total
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	デフォルトのディレクトリまたはファイル システムを変更します。
delete	フラッシュ メモリ デバイスのファイルを削除します。

disable

Call Home 機能をディセーブルするには、Call Home コンフィギュレーション サブモードで **disable** コマンドを使用します。

disable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード Call Home コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Call Home 機能をイネーブルにするには、**enable** コマンドを使用します。

例 次に、Call Home 機能をディセーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
switch(config)# callhome  
switch(config-callhome)# disable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callhome	Call Home 機能を設定します。
	callhome test	ダミーのテストメッセージを設定された 1 つまたは複数の宛先へ送信します。
	show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

discover

ホストの検出を開始するには、**discover** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
discover host host port target target port vsan vsan id fabric fabric name
no discover
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
host <i>host port</i>	<i>host port</i>	ホストポートの WWN を識別します。フォーマットは <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
target <i>target port</i>	<i>target port</i>	ターゲットポート World Wide Name (WWN) を識別します。フォーマットは <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
vsan <i>vsan id</i>	<i>vsan id</i>	VSAN ID を選択します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
fabric <i>fabric name</i>	<i>fabric name</i>	検出するファブリックを指定します。最大 32 文字まで可能です。

デフォルト なし

コマンドモード Cisco SME クラスタ コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	3.2(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、ホストを検出し、検出するターゲット、VSAN および ファブリックを指定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster clusternam1
switch(config-sme-cl)# discover host 20:00:00:00:c9:49:28:47 target
21:01:00:e0:8b:29:7e:0c vsan 2345 fabric sw-xyz
```

次に、検出機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# sme cluster clusternam1
switch(config-sme-cl)# no discover
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show sme cluster	Cisco SME クラスタの情報を表示します。

discover custom-list

VSAN（仮想 SAN）の指定ドメイン ID の検出を選択的に開始するには、EXEC モードで **discover custom-list** コマンドを使用します。

```
discover custom-list {add | delete} vsan vsan-id fcid fc-id
```

シンタックスの説明	
add	カスタマイズされたリストにターゲットを追加します。
delete	カスタマイズされたリストからターゲットを削除します。
vsan vsan-id	指定した VSAN（仮想 SAN）ID の SCSI ターゲットを検出します。範囲は 1 ～ 4093 です。
fcip fc-id	指定の Fibre Channel ID (FCID) の SCSI ターゲットを検出します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。

デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、指定の VSAN および FCID の検出を選択的に開始する例を示します。

```
switch# discover custom-list add vsan 1 fcid 0X123456
```

次に、カスタマイズされたリストから指定の VSAN および FCID を削除する例を示します。

```
switch# discover custom-list delete vsan 1 fcid 0X123456
```

discover scsi-target

スイッチのローカルストレージ上またはファブリックを介したリモートストレージ上の SCSI ターゲットを検出するには、EXEC モードで **discover scsi-target** コマンドを使用します。

```
discover scsi-target {custom-list | local | remote | vsan vsan-id fcid fc-id} os {aix | all | hpux | linux | solaris | windows} [lun | target]
```

シンタックスの説明

custom-list	カスタマイズされたリストから SCSI ターゲットを検出します。
local	ローカル SCSI ターゲットを検出します。
remote	リモート SCSI ターゲットを検出します。
vsan vsan-id	指定した VSAN (仮想 SAN) ID の SCSI ターゲットを検出します。範囲は 1 ~ 4093 です。
fcip fc-id	指定の Fibre Channel ID (FCID) の SCSI ターゲットを検出します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
os	指定したオペレーティングシステムを検出します。
aix	AIX OS を検出します。
all	すべての OS を検出します。
hpux	HPUX OS を検出します。
linux	Linux OS を検出します。
solaris	Solaris OS を検出します。
windows	Windows OS を検出します。
lun	SCSI ターゲットおよび Logical Unit Number (LUN) を検出します。
target	SCSI ターゲットを検出します。

デフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.3(2a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

オンデマンドの検出では、FC4 Type = SCSI_FCP を登録したネーム サーバデータベースに存在する Nx ポートのみを検出します。

例

次に、すべての OS に割り当てられたローカル ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、すべての Windows OS に割り当てられたリモート ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os windows
discovery started
```

次に、指定の VSAN (1) および FCID (0x9c03d6) の SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:      1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00:00:00
      PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012...
```

次に、Linux OS に割り当てられたカスタマイズされたリストからターゲット検出を開始する例を示します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用した Call Home 機能の配信をイネーブルにするには、Call Home コンフィギュレーションサブモードで **distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
distribute
no distribute
```

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード Call Home コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(1b)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、CFS を使用した Call Home 機能の配信をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callhome	Call Home 機能を設定します。
	callhome test	ダミーのテストメッセージを設定された 1 つまたは複数の宛先へ送信します。
	show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

do

すべてのコンフィギュレーション モードまたはサブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、**do** コマンドを使用します。

do command

シンタックスの説明	<i>command</i>	実行する EXEC コマンドを指定します。
------------------	----------------	-----------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	すべてのコンフィギュレーション モード
----------------	---------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、スイッチの設定中に EXEC コマンドを実行します。EXEC コマンドが実行されたあと、システムは do コマンドを実行したモードに戻ります。
-------------------	---

例	次に、コンフィギュレーション モードで do コマンドを使用して、 terminal session-timeout コマンドをディセーブルにする例を示します。
----------	--

```
switch(config)# do terminal session-timeout 0
switch(config)#
```

次に、コンフィギュレーション モードからインターフェイスの作成、イネーブル化、および表示を実行する例を示します。

```
switch(config)# int fc 3/1
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# do show interface fc 3/1
fc3/1 is trunking
  Hardware is Fibre Channel
  Port WWN is 20:81:00:05:32:00:4a:9e
  Peer port WWN is 20:43:00:0c:88:00:4a:e2
  Admin port mode is auto, trunk mode is on
  Port mode is TE
  Port vsan is 1
  Speed is 2 Gbps
  Transmit B2B Credit is 0
  Receive B2B Credit is 255
  Receive data field Size is 2112
  Beacon is turned off
  Trunk vsans (admin allowed and active) (1-10)
  Trunk vsans (up) (1-10)
  Trunk vsans (isolated) ()
  Trunk vsans (initializing) ()
  5 minutes input rate 504 bits/sec, 63 bytes/sec, 0 frames/sec
  5 minutes output rate 344 bits/sec, 43 bytes/sec, 0 frames/sec
  69390 frames input, 4458680 bytes
    0 discards, 0 errors
    0 CRC, 0 unknown class
    0 too long, 0 too short
  69458 frames output, 3086812 bytes
    0 discards, 0 errors
  2 input OLS, 1 LRR, 0 NOS, 2 loop inits
  1 output OLS, 1 LRR, 1 NOS, 1 loop inits
```


dpvm abort

進行中の Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーション モードで **dpvm abort** コマンドを使用します。

dpvm abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

例 次の例では、進行中の DPVM CFS 配信セッションを廃棄する方法を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# dpvm abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm database	DPVM データベースを設定します。
	dpvm distribute	DPVM の CFS 配信をイネーブルにします。
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM 情報を表示します。

dpvm activate

Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) コンフィギュレーションデータベースを有効にするには、**dpvm activate** コマンドを使用します。DPVM コンフィギュレーションデータベースを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dpvm activate [force]

no dpvm activate [force]

シンタックスの説明	force	設定した DPVM データベースとアクティブ DPVM データベースの間に競合が存在する場合、強制的にアクティブ化または非アクティブ化します。
-----------	--------------	---

デフォルト ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

設定した DPVM データベースと現在アクティブ化された DPVM データベースの間に競合するエントリが発見された場合、アクティブ化が失敗することがあります。**force** オプションを使用すれば、競合を無視できます。

例 次の例では、DPVM データベースを有効にする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# dpvm activate
```

次の例では、DPVM データベースを無効にする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no dpvm activate
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm database	DPVM データベースを設定します。
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dpvm auto-learn

Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースの自動学習機能 (autolearn) をイネーブルにするには、**dpvm auto-learn** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dpvm auto-learn

no dpvm auto-learn

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

自動学習がイネーブルになると、システムは VSAN (仮想 SAN) とともに現在記録されている、または新規に記録されたデバイスについて学習することで、自動的に DPVM データベースを作成します。DPVM データベースを作成するには、この方法が迅速であり、あとで編集することも可能です。autolearn 機能には、次が含まれます。

- 自動学習されたエントリは、デバイス pWWN および VSAN をアクティブ DPVM データベースに追加すると作成されます。
- アクティブ DPVM データベースは、自動学習がイネーブルになっているときに存在する必要があります。
- 自動学習されたエントリは、自動学習がディセーブルになるまで、ユーザによりアクティブ DPVM データベースから削除可能です。自動学習されたエントリは、自動学習がディセーブルになるまで、アクティブ DPVM データベースでは永続的ではありません。
- 自動学習がイネーブルのときにデバイスがログアウトすると、デバイス エントリはアクティブ DPVM データベースから削除されます。
- 特定のデバイスがスイッチに異なるポートで複数回ログインした場合、最終ログインに対応する VSAN だけがデバイスに関連付けられます。
- 自動学習エントリは、以前設定したアクティブ エントリを上書きしません。

例 次の例では、DPVM データベースの自動学習をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# dpvm auto-learn
```

次の例では、DPVM データベースの自動学習をディセーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no dpvm auto-learn
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dpvm commit

ファブリック内で進行中の Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) Cisco Fabric Servers (CFS) 配信セッション関連の未決定コンフィギュレーションを適用するには、**dpvm commit** コマンドを使用します。

dpvm commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

例 次の例では、DPVM データベースへの変更を確定する方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# dpvm commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm distribute	DPVM の CFS 配信をイネーブルにします。
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM 情報を表示します。

dpvm database

Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースを有効化および設定するには、**dpvm database** コマンドを使用します。データベースを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dpvm database

no dpvm database

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト デイセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

DPVM データベースは、一連のデバイス マッピング エントリで構成されます。各エントリは、割り当てられるダイナミック VSAN（仮想 SAN）とともに、デバイス pWWN または nWWN で構成されます。DPVM データベースにエントリを追加するには、**nwwn** コマンドまたは **pwwn** コマンドを使用します。このデータベースは、スイッチ（およびファブリック）全体に対してグローバルで、各 VSAN には保持されません。

例 次の例では、DPVM データベースを有効にして、DPVM データベース コンフィギュレーション サブモードにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# dpvm database
switch(config-dpvm-db)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	nwwn (DPVM データベース コンフィギュレーション サブモード)	nWWN を使用して、エントリを DPVM データベースに追加します。
	pwwn (DPVM データベース コンフィギュレーション サブモード)	pWWN を使用して、エントリを DPVM データベースに追加します。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dpvm database copy active

アクティブの Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースを config DPVM データベースにコピーするには、**dpvm database copy active** コマンドを使用します。

dpvm database copy active

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

次の状況では、アクティブ データベースを config データベースにコピーする必要がある場合があります。

- 自動学習されたエントリが、アクティブ データベースにのみ追加された場合
- config データベースまたは config データベースのエントリが誤って削除された場合



(注) ファブリック配信がイネーブルになっているときに DPVM データベースをコピーする場合は、まず変更を確定する必要があります。

例 次の例では、アクティブ DPVM データベースを config DPVM データベースにコピーする方法を示します。

```
switch# dpvm database copy active
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dpvm database diff

アクティブな Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) データベースを表示するには、**dpvm database diff** コマンドを使用します。

```
dpvm database diff {active | config}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	active	DPVM config データベースと比較したときの DPVM アクティブ データベースにある差異を表示します。
	config	DPVM アクティブ データベースと比較したときの DPVM config データベースにある差異を表示します。

デフォルト デイセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

例 次に、DPVM config データベースと比較したときに DPVM アクティブ データベースにある差異を表示する例を示します。

```
switch# dpvm database diff active
Legend: "+" New Entry, "-" Missing Entry, "*" Possible Conflict Entry
-----
- pwn 44:22:33:44:55:66:77:88 vsan 44
* pwn 11:22:33:44:55:66:77:88 vsan 11
```

次に、DPVM アクティブ データベースと比較したときに DPVM config データベースにある差異を表示する例を示します。

```
switch# dpvm database diff config
Legend: "+" New Entry, "-" Missing Entry, "*" Possible Conflict Entry
-----
- pwn 44:22:33:44:55:66:77:88 vsan 44
* pwn 11:22:33:44:55:66:77:88 vsan 11
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dpvm distribute

Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) の Cisco Fabric Services (CFS) 分配をイネーブルにするには、**dpvm distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dpvm distribute

no dpvm distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、**dpvm enable** コマンドを使用して DPVM をイネーブルにする必要があります。

ファブリックへ配信する前に、**dpvm commit** コマンドを使用してアクティブ DPVM データベースを有効にするには、DPVM データベースへの一時的な変更を確定する必要があります。

例 次の例では、DPVM データベースの配信をディセーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no dpvm distribute
```

次の例では、DPVM データベースの配信をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# dpvm distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm enable	DPVM をイネーブルにします。
	show dpvm	DPVM 情報を表示します。

dpvm enable

Dynamic Port VSAN Membership (DPVM) をイネーブルにするには、**dpvm enable** コマンドを使用します。DPVM をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dpvm enable

no dpvm enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン DPVM の設定および確認コマンドは、DPVM がスイッチでイネーブルの場合にのみ、使用することができます。この機能をディセーブルにした場合、関連するすべての設定は自動的に廃棄されます。

例 次の例では、DPVM をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal  
switch(config)# dpvm enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dpvm activate	DPVM データベースを有効にします。
	dpvm database	DPVM データベースを設定します。
	show dpvm	DPVM データベース情報を表示します。

dscp

Quality of Service (QoS; サービス品質) ポリシー マップ クラスで Differentiated Services Code Point (DSCP) を設定するには、EXEC モードで **dscp** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

dscp *value*

no dscp *value*

シンタックスの説明	<i>value</i>	DSCP 値を設定します。有効範囲は、0 ~ 63 です。DSCP 値の 46 は予約されています。
------------------	--------------	--

デフォルト デフォルト DSCP 値は 0 です。

コマンドモード QoS ポリシー マップ クラス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.3(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン QoS ポリシー マップ クラスを設定する前に、次の内容を実行してください。

- **qos Enable** コマンドを使用して QoS データ トラフィック機能をイネーブルにします。
- **qos Class-map** コマンドを使用して QoS クラス マップを設定します。
- **qos Policy-map** コマンドを使用して QoS ポリシー マップを設定します。
- **class** コマンドを使用して QoS ポリシー マップを設定する。

例 次に、QoS ポリシー クラス マップ 1 に DSCP 値 56 を設定する例を示します。

```
switch(config-pmap)# class classMap1
switch(config-pmap-c)# dscp 56
switch(config-pmap-c)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	qos enable	スイッチの QoS データ トラフィック機能をイネーブルにします。
	qos class-map	QoS クラス マップを設定します。
	qos policy-map	QoS ポリシー マップを設定します。
	class	QoS ポリシー マップ クラスを設定します。
	show qos	現在の QoS 設定を表示します。

duplicate-message throttle

複製 Call Home アラートメッセージのスロットルをイネーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション サブモードで **duplicate-message throttle** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

duplicate-message throttle

no duplicate-message throttle

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード Call Home コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0(x)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スロットル比は、2 時間に最大 30 メッセージです。

例 次の例では、複製 Call Home アラート メッセージのスロットルをイネーブルにする方法を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# duplicate-message throttle
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callhome	Call Home 機能を設定します。
	callhome test	ダミーのテスト メッセージを設定された 1 つまたは複数の宛先へ送信します。
	show callhome	設定された Call Home 情報を表示します。

■ duplicate-message throttle